

平成 22 年度
(2010 年度)

事業報告書

自 2010 年 7 月 1 日

至 2011 年 3 月 31 日

公益財団法人ユニジャパン

平成 22 年度 事業実績報告書

. [事業の状況]

1 . 国際映画祭事業

名称： 第 23 回東京国際映画祭
主催： 公益財団法人ユニジャパン
(第 23 回東京国際映画祭実行委員会)
共催： 経済産業省(マーケット部門)、東京都(コンペティション部門)、
文化庁(映画人の視点)
期間： 平成 22 年 10 月 23 日(土)~31 日(日)
企画： コンペティション、特別招待作品、アジアの風、日本映画・ある視点、
ワールド・シネマ、natural TIFF、みなと上映会、TIFFCOM 2010、
第 7 回文化庁映画週間 他
会場： 六本木ヒルズ(港区)をメイン会場とし、その他都内劇場及び施設・
ホールを使用
後援： 総務省 / 外務省 / 環境省 / 観光庁 / 財団法人 JKA
独立行政法人国際交流基金 / 港区 / 独立行政法人日本貿易振興機構
社団法人日本経済団体連合会 / 東京商工会議所
一般社団法人日本映画製作者連盟 / 一般社団法人映画産業団体連合会
社団法人外国映画輸入配給協会
モーション・ピクチャー・アソシエーション(MPA)
全国興行生活衛生同業組合連合会 / 東京都興行生活衛生同業組合
財団法人角川文化振興財団 / 財団法人デジタルコンテンツ協会
公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団
社団法人デジタルメディア協会
特定非営利活動法人法人映像産業振興機構
社団法人日本映像ソフト協会 / 東京国立近代美術館フィルムセンター
助成： 芸術文化振興基金
補助： 財団法人 JKA(競輪補助事業)
スペシャルパートナー： トヨタ自動車株式会社
オフィシャルパートナー： 株式会社木下工務店 / 日本コカ・コーラ株式会社 / キヤノン株式会社
協賛： パナソニック株式会社 / 株式会社大和証券グループ本社
株式会社ファンケル / 楽天株式会社 / ソニーPCL 株式会社
森ビル株式会社 / 株式会社 WOWOW / 株式会社 SANKYO
凸版印刷株式会社 / 株式会社 AOKI ホールディングス

富士フイルム株式会社 / ぴあ株式会社 / 株式会社ローソン
松竹株式会社 / 東宝株式会社 / 東映株式会社
角川映画株式会社 (現・株式会社角川書店) / 日活株式会社
TOHO シネマズ株式会社 / 一般社団法人映画演劇文化協会
株式会社ティーワイ リミテッド

特別協力： 読売新聞東京本社
フードサポーター： 株式会社宗家 源 吉兆庵 / 白八ト食品工業株式会社
協力： Cine Grid / 帝人株式会社 / 株式会社テレビ朝日 / 株式会社 J-WAVE
東京メトロポリタンテレビジョン株式会社
ジュピターエンタテインメント株式会社

[開催概要]

第23回東京国際映画祭は平成22年10月23日(土)から10月31日(日)までの9日間、六本木ヒルズをメイン会場として、その他都内の会場を使用して開催された。今年で7回目を迎えたマーケット部門(TIFFCOM2010)も六本木アカデミーヒルズ内で開催されたが、各会場とも大変な賑わいを見せ、好評裡に終了することが出来た。

“Action! For Earth,, 昨年に引き続き「エコロジー」をテーマに、更なる飛躍へのステップとして、映画を通じて地球環境を考えるための様々な取り組みを行なった。全上映をグリーン電力で実施、さらにグリーンタイ晚餐会、Earth Conferenceなどのイベントを行なった。

今映画祭の自主企画は25企画、動員数は121,010名、上映作品数は178本であった。提携企画まで入れると、企画総数は35、総動員数は231,474名、総上映作品数は293本となった。

オープニングセレモニーは10月23日(土)に、TOHOシネマズ六本木ヒルズ内で開催された。依田チェアマンの開会宣言の後、大畠経済産業大臣が祝辞を述べられた。続いて国際審査委員及びコンペティション作品の紹介が行なわれた。

オープニング作品は、デヴィッド・フィンチャー監督の「ソーシャル・ネットワーク」で、主演のジェシー・アイゼンバーグ、脚本のアロン・ソーキンによる舞台挨拶もあり、盛況のうちに上映された。終映後、グランドハイアット東京の宴会場に場所を移し、歓迎レセプション、グリーンタイ晚餐会が行なわれた。

クロージングセレモニー(授賞式)は、10月31日(日)TOHOシネマズ六本木ヒルズ内で開催された。授賞式では、「最優秀アジア映画賞」「日本映画・ある視点作品賞」の贈賞に続き、「コンペティション」各部門の授賞が発表された。コンペティション部門の「東京サクラグランプリ」はニル・ベルグマン監督の「僕の心の奥の文法」に贈られた。また、審査員特別賞は新藤兼人監督の「一枚の八ガキ」に贈られたが、新藤監督はTIFF史上最

高齢での受賞となった。

また、「最優秀アジア映画賞」はシン・スウォン監督の「虹」に、日本映画・ある視点作品賞は深田晃司監督の「歓待」に、「TOYOTA Earth Grand Prix」はケヴィン・マクマホン監督の「水の惑星 ウォーターライフ」に贈られた。

[自主企画]

(1) コンペティション (共催：東京都)

本映画祭の主要部門として映画産業の担い手となる有望な映画作家の活動を支援し、映画芸術の向上と国際交流に寄与することを目的に、2010年1月以降に完成した長編作品を世界各国から公募し、厳正な予備審査を経た15作品を期間中上映した。各作品の上映後に招聘したゲスト(作品関係者)によるティーチ・インを行い、観客との交流の輪を広げた。

国際映画製作者連盟の規約に従い、5名(日本人1名を含む)で構成される国際審査委員会を設けて作品の審査を行い、東京サクラグランプリ、審査員特別賞、最優秀監督賞、最優秀主演女優賞、最優秀主演男優賞、最優秀芸術貢献賞の6賞が決まり、10月31日の閉会式会場で発表された。東京サクラグランプリには5万米ドル、審査員特別賞には2万米ドル、その他の賞に5千米ドルが副賞として贈られた。東京サクラグランプリ作品には東京都知事から賞状とトロフィー(麒麟像)が贈られた。また、みなと委員会の協力により、一般客の投票による観客賞が設けられ、賞金1万米ドルが1作品に贈られた。

東京サクラグランプリ：『僕の心の奥の文法』(監督 ニル・ベルグマン)

審査員特別賞：『一枚のハガキ』(監督 新藤兼人)

最優秀監督賞：ジル・パケ＝ブレネール(作品『サラの鍵』)

最優秀主演女優賞：ファン・ピンピン(作品『ブッダ・マウンテン』)

最優秀主演男優賞：ワン・チエンユエン(作品『鋼のピアノ』)

最優秀芸術貢献賞：『ブッダ・マウンテン』

上映数：15作品 動員数：10,619名

(2) 特別招待作品

国内未公開の話題作品を22本上映した。招聘した作品ゲストによる舞台挨拶やイベント参加などで華やかに盛り上げ、東京国際映画祭のPRと観客動員に貢献した。

上映数：22作品 動員数：10,191名(「特別上映」1本を含む)

(3) アジアの風

現在世界でもっとも熱気が感じられるアジアの映画を対象に、さらに地域を拡大して、選定した新作に、「台湾電影ルネッサンス 2010～美麗新世代」、「躍進トルコ映画の旗手レハ・エルデム監督特集」、「生誕70年記念～ブルース・リーから未来へ」、「ディスカバー 亜州電影【生誕100年記念～KUROSAWA魂 in アジア中東】」の4特集を合わせた40本

を上映、各作品のスタッフや出演者を招聘して観客との交流をはかるとともに、国際映像マーケットにも参加してもらい、アジア映画の産業の発展に繋げることが出来た。

上映数：40 作品 動員数：11,237 名

最優秀アジア映画賞

「アジアの風」部門で上映された作品の中から、アジア映画賞審査委員会により1作品が選ばれ、賞金1万米ドルが贈られた。

最優秀アジア映画賞：『虹』（監督 シン・スウォン）

(4) 日本映画・ある視点

活況を増している日本映画を対象に、ある角度から焦点を絞った選考を行ない、一般観客を始め、海外からのゲストにも新しい日本映画の躍動を紹介する企画である。個性に溢れた多様性のある作品8本を上映した。

上映作品の中から、審査委員会により作品賞が選ばれ、100万円が贈られた。

作品賞：『歓待』（監督 深田晃司）

上映数：8 作品 動員数：2,258 名

(5) ワールドシネマ

欧米の映画を中心に、他の国際映画祭で高い評価を受けた秀作や、有名監督の日本では未公開の作品など、世界で話題になっている新作の数々を紹介する企画。今年は、9月に急逝したクロード・シャブロール監督の遺作「刑事ベラミー」も緊急追悼上映として行った。

上映本数：11 作品 動員数：5,447 名

(6) natural TIFFF

エコロジーをテーマに掲げた本映画祭が21回から新たに設けた部門。「自然と人間の共生」という視点から、ドラマ、ドキュメンタリーを含め、また新作、旧作を問わず柔軟な選定を行なった。

上映本数：11 作品 動員数：1,828 名

TOYOYA Earth Grand Prix

「natural TIFFF」部門で上映された新作を対象に、審査委員会の審査により、1作品が選ばれ、賞金5千米ドルが贈られた。

TOYOTA Earth Grand Prix：「水の惑星 ウォーターライフ」

(監督 ケヴィン・マクマホン)

[共催・提携企画]

(7) 第7回文化庁映画週間

「文化庁映画賞の授賞並びに記念上映会」

優れた文化記録映画3作品に対する「文化庁映画賞」の授賞と、記念上映会を開催。併せて、永年にわたり日本映画を支え、顕著な業績を挙げた功労者7名を顕彰した。

「映画人の視点 Filmmaker's Angle」

今年は、3日間にわたり、小泉今日子、種田陽平、りんたろうという日本を代表する映画人をオールナイトで特集。本人と、ゆかりの豪華なゲストを迎えたトークイベントと、人気作品の上映で映画ファンとの交流を図り、盛況を博した。

「シンポジウム - MOVIE CAMPUS-」

国内外の映画製作と地域の文化振興を促進する目的で、映画『桜田門外ノ変』の製作事例、ヨーロッパシネマの活動を紹介。国内の映画市場分析を交え、映画興行文化の未来についてディスカッションを行った。

「映画ナビゲーターズ」

「やわらか戦車」のFlashアニメーション監督・ラレコと、「スカイフィッシュの捕まえ方」等の演出家・古屋雄作が独自の視点で映画へのオマージュを語るトークライブを開催。ネット上で動画配信も同時中継された。

(8) みなと上映会

親子で楽しめるプログラムが毎年好評の上映会。「マイマイ新子と1,000年の魔法」やキンダー・フィルム・フェスティバルの協力により集められた海外でも評判の高い子供向けの秀作を10本上映した。尚、アリーナでのライブ上映は台風のため、中止となった。

(9) 東京国際女性映画祭 10月23日(土)～10月26日(火)

東京国際映画祭と同時にスタートした「女性映画祭」も23回を迎えた。今年はベテラン女性監督を中心に、8カ国11作品を上映した。どの作品も評判がよく、シンポジウム「家族の未来」にも多くの賛同の意が寄せられた。

(10) コリアン・シネマ・ウィーク 2010 10月23日(土) 24日(日)

10年目を迎え、日本未公開の最新韓国映画5作品を上映し好評を博した。ゲストに『ハーモニー』のカン・テギユ監督、主演のキム・ユンジンさんを迎え舞台挨拶を行い、グリーン・カーペットにも参加した。

(11) ショートショートフィルムフェスティバル & アジア「フォーカス オン アジア」

10月28日(木)～10月31日(日)

インターナショナルプレミアとなった村上春樹原作のショートフィルム『パン屋再襲撃』を特別上映する他、アジアの秀作を一挙上映。同作品の監督、カルロス・キュアロン氏を迎えてのワークショップも開催した。

(12) 2010 東京・中国映画週間 10月23日(土)～10月29日(金)

日中両国の相互理解のため、そして更なる映画・観光産業相互発展のための映画祭。みなさまの温かいご声援の中、無事に成功させることができた。

(13) 第3回したまちコメディ映画祭 in 台東 9月16日(木)～9月20日(月・祝)

谷啓氏へのコメディ栄誉賞受賞を記念し、クレージーキャッツ特集を開催。オールナイトや特集上映の他、クロージングではライブを行った。その他にもスライダーズの講演や声や口演ライブなど、多彩な企画を実施した。

(14) 日本映画監督協会新人賞、上映とシンポジウム～若手監督、世界の映画界に風穴を

開ける！～

10月28日(木)

伝統ある日本映画監督協会新人賞の第50回受賞者・入江悠監督と、映画祭コンペティションに参加の、シニツァ・ドラギン、ベルマ・バシュの2監督が、同賞映画上映後、林海象監督の司会で、映画の未来を語り合った。

(15) 映団連セミナー～フィルム原版の修復、保存とボーンデジタルシネマの長期的なア

ーカイヴについて～

10月24日(日)

「文化財としての映画の保存」をテーマに基調講演とパネルディスカッションを開催、併せて、角川映画“原版保存プロジェクト修復作品”『大捜査網』の上映を行った。映画関係者等が多数参加、盛況を博した。

(16) CONNECT USA 渡辺謙×中島信也トークショー「時代を創る二つの方法」

10月30日(土)

ハリウッド俳優・渡辺謙氏と天才CMディレクター・中島信也氏をゲストにお招きし、一夜限りのトークショーを開催。日米関係をデジタル文化から見てみる新たな試みに、250名を超す参加者は耳を傾けていた。

(17) Cine Grid @TIFF 2010

10月28日(木)

最新の映像制作・配信技術に関するカンファレンス。世界各国から映画関係者や技術・研究者を集め、満席の会場と一体化した活発な議論が交わされた。4K双方向ライブ中継のデモンストレーションなども行われた。

(18)「Graduated Response」と「スリーストライクルール」を考えるフォーラム

10月21日(木)

ネット上での映画などへの著作権侵害に対処するルールとして、罰則的意味合いの強い「三振ルール」と、教育的要素の強い「GR」について、海外ゲストと共に効果などを議論した。

(19)日本 - 香港 共同制作ロードマップ

10月27日(水)

日本・香港よりコンテンツ業界の第一人者をお招きしセミナーを開催。香港映画産業の最新情報を提供すると共に、現在進行中の日港共同制作プロジェクトの制作者が香港というプラットフォームの活用事例を紹介した。

(20)全国ロケ地フェア2010

10月29日(金)

全国各地からFC担当者が集まりロケ撮影に関する相談を行う同マーケットには、今年観光庁がスタートさせた「スクリーンツーリズム促進プロジェクト」を活かして作品を企画する制作者も多数集まり、大変盛り上がった。

(21) その他の上映企画

「イタリア映画上映会 - “あゝ結婚”」 10月25日・27日・28日

イタリア文化会館にてイタリア映画の秀作3本を上映

「GTF トーキョーシネマショー2010」 9月3日・4日

初日は、第6回「筑紫賞:ゴールデンタイトル・アワード」の授賞式と、配給会社22社による新作プレゼンテーションが行なわれた。2日目は新作3本を上映

「第18回キンダー・フィルム・フェスティバル」 8月10日・8月19日~22日

実行委員長に戸田恵子さんが就任しメディアでも幅広く紹介。コンペティションでは『小さなバイキング ビッケ』がグランプリを獲得、大人から子供までが一緒に楽しめる映画祭となった。青山劇場、調布市文化会館たづくりにて

「田辺・弁慶映画祭2010」 11月5日~11月7日

コンペ作品5本を上映。和歌山県紀南文化会館で開催。

[顕彰・助成]

東京国際映画祭のコンペティション部門における東京サクラグランプリ他優秀作品、監督、俳優に対する顕彰。

アジアの優秀作品に対する顕彰(最優秀アジア映画賞)。

日本映画の優秀作品に対する顕彰(日本映画・ある視点 作品賞)。

natural TIFFF 部門の優秀作品に対する顕彰 (TOYOTA Earth Grand Prix)。

[運営]

自主企画の実施

本年度は、例年行われている「コンペティション」、「特別招待作品」、「アジアの風」、「日本映画・ある視点」、「WORLD CINEMA」、及び「natural TIFF supported by TOYOTA」を実施した。

上映会場、各種会場

六本木地区をメイン会場とした。

主要上映会場：TOHO シネマズ六本木ヒルズ（9スクリーン）

シネマート六本木（2スクリーン）

その他上映会場（提携企画を上映）：

セルバンテス文化センター東京、新宿ミラノ 1、東京都写真美術館、
イタリア文化会館アニェッリホール、TOHO シネマズ日劇、東商ホール、
青山劇場 / 調布市文化会館たづくり、浅草公会堂、浅草中映劇場、
上野東急 2、紀南文化会館、

また、上映会場以外の会場として以下を使用した。

グランドハイアット東京：オープニング・レセプション、グリーンタイ晚餐会の
会場として使用。

アカデミーヒルズ：49 階（東京国際映画祭事務局、マーケットスクリーニング、
記者会見、各種取材、各種セミナー実施、
TIFFCOM フェアウェルパーティ）

40 階（TIFFCOM のマーケット会場、感謝の夕べ）

3 階（プレス・インフォメーション、プレス・センター）

2 階（インフォメーション・デスク、ID カウンター）

ヒルズカフェ：TIFF movie cafe（ティフムービーカフェ）として使用。

六本木ヒルズ 大屋根プラザ：グリーンカーペット・エリアとして使用。

六本木ヒルズ 66 プラザ：インフォメーションブースとして使用。

六本木ヒルズ アリーナ：週末を中心に各種イベントの実施に使用。

政策研究大学院大学（GRIPS）：ユニジャパン エンタテインメントフォーラム
会場として使用。

入場料金

オープニング作品	¥2,000 -
クロージング作品	¥2,000 -
コンペティション	¥1,000 - / ¥1,200 -
特別招待作品	¥1,800 -
アジアの風	¥1,300 - / ¥1,500 -
日本映画・ある視点	¥1,300 - / ¥1,500 -

WORLD CINEMA	¥1,300 - / ¥1,500 -
natural TIFF supported by TOYOTA	¥1,300 - / ¥1,500 -
みなと上映会	¥1,000 - / ¥1,200 -
映画人の視点	¥2,500 - / ¥3,000 -
特別上映	¥1,500 - / ¥1,800 -
監督協会共催特別上映	¥ 800 - / ¥1,000 -

会期中のイベント

(六本木ヒルズ アリーナイベント)

オープニング・イベント：グリーンカーペットからの流れで作品ゲストが特設ステージに登壇して挨拶をした。

体験 in TIFF park：グリーンカーペット体験、読み聞かせ映画体験、ヘアデザインショー＆モデル体験、映画音楽体験、祭りの「食」体験、TIFF エコ体験

(TIFF movie cafe ティフムービーカフェ)

会期中、六本木ヒルズの注目スポットであるヒルズカフェを TIFF movie cafe(ティフムービーカフェ)として、様々な企画を行った。

コンペティション作品記者会見、国際審査委員記者会見、各種パーティー
東京国際映画祭チャリティ・オークション

TIFF night：DJ やライブ演奏など

(グリーンカーペット・エリア)

六本木ヒルズ 大屋根プラザをグリーンカーペット・エリアと称して、映画とエコロジーをつなぐ空間を創出した。

インフォメーションブースの設置

六本木ヒルズ 66 プラザ、大屋根プラザ、アカデミーヒルズエントランス内にて実施した。広く一般の六本木ヒルズ来場者に映画祭の案内を行うとともに、映画祭に訪れたマスコミ・映画業界関係者への案内業務を行った。

ボランティア・スタッフの採用

TIFF の WEB サイト上で募集したボランティア・スタッフの方々に、上映会場での案内や事務局業務のサポートなど様々なところで活躍してもらった。また、大学や専門学校の協力のもとに学生をインターンで映画祭に参加してもらおう試みも実施した。

オリジナル・グッズの販売

TIFF オフィシャルグッズとして、ピンバッジ、エコバッグを作成した。

[広報活動]

新聞広告 「読売新聞」紙上
 劇場予告 首都圏の主要劇場（9月下旬）
 プレス PASS 取材者向けの ID 登録。
 プレスセンターや ID 上映での利用が可能になる。

記者会見

(ア) ラインアップ記者会見 2010年 9月30日 六本木ヒルズ・キャラント A
 (イ) 会期中の記者会見 六本木ヒルズ・ムービーカフェ
 (ウ) 受賞者記者会見 2010年 10月31日 六本木ヒルズ・タワーホール
 宣伝素材 チラシ（全上映スケジュール入り）
 公式プログラム、公式記録、ポスター、イベントチラシ

パブリシティ テレビ番組での特集放送、映画専門誌への特集掲載、WEBポータルサイトへの特集掲載など

一般紙、スポーツ紙：新聞合計	829 媒体
映画専門誌、情報誌：紙媒体合計	251 媒体
NHK、民放全局、BS・CS局他：電波媒体合計	125 媒体
インターネット：ネット媒体合計	3,353 媒体
海外広報：海外媒体合計	1,481 媒体
<hr/>	
パブリシティ合計	6,039 媒体

会期中は、上映会場においてマスコミ対応、また来日ゲストの個別取材等に対応した。

Tokyo Daily の発行

TIFF/TIFFCOM 会期中の4日間、THE HOLLYWOOD REPORTER 誌と提携して、Tokyo Daily を発行した。3,000部×4日間の配布、及び、HR 誌と TIFF の WEB サイトにて UP、8,000 件のアクセスを得た。

Cyber TIFF 東京国際映画祭の動画配信プロジェクト
 公式 WEB 及びモバイルサイトでの動画配信を通して、TIFF の最新情報を発信するとともに、オープニング、クロージングの様子は TOKYO MX で放送し、CS 映画専門チャンネルのムービープラスでも PR 番組を放送した。

イメージネット TIFF の出品作品の素材を提供しているサービス。登録者であれば誰でもアクセス出来て、写真等を取り込むことが出来る。また、情報発信のツールとしても活用。

〔東京国際映画祭地区委員会の活動〕

みなと委員会 港区、麻布警察署、麻布消防署、六本木ヒルズ自治会、港区内の各町会、商店街連合会で結成された東京国際映画祭を支援する委員会である。今回も、会期前から会期中を通じて会場周辺や港区内の各所で東京国際映画祭を盛り上げる様々な活動を展開した。

みなと上映会 区民などの家族を対象にした上映会の開催

2010年10月23日(土)、30日(土)

TOHO シネマズ六本木ヒルズ、六本木ヒルズ・アリーナ

観客賞 観客が自由に選ぶコンペティション作品の賞(賞金1万米ドル)

街頭フラッグの掲出

けやき坂、麻布十番商店街、六本木商店街にて合計275枚

2010年10月9日(土)～10月24日(日)

クリーンナップ・プロジェクト

武井港区長、依田映画祭チェアマンをはじめ約295名が参加して、六本木会場周辺の街頭清掃作業を行った。

2010年10月16日(土) 午前10時開始

オリジナル広告 港区の Kiss ポート誌に1ページ広告を掲載して、港区内の全戸に新聞折込配布した他、主要駅、公共施設で合計155,000枚を配布した。

(森ビル・六本木ヒルズ内の広報活動)

地下鉄通路 地下鉄コルトン、特設ポスターボード

メトロハット 内周バナー、外周ガラス面シート、吊り下げバナー

66 プラザ 水景、ポスターボード、柱面特設シート、植栽マウントフラッグ

大屋根プラザ 吊り下げバナー

けやき坂 歩道照明バナー

(六本木地区内の広報活動)

六本木駅 柱巻き、オープニング・クロージング作品ポスター

2. コンテンツマーケット事業

【TIFFCOM2010 Marketplace for Film & TV in Asia】

東京国際映画祭併設のコンテンツ・ビジネスマーケットを実施した。ビジネスシンポジウムや各種セミナーなどをユニジャパン エンタテインメント フォーラムという別プロジェクトとして立ち上げ、映画・TVを中心とした映像コンテンツの国際取引から国際共同製作まで、ビジネスの海外展開のサポートを行った。合計参加人数は、21,095人であった。

TIFFCOM (コンテンツマーケット)

第7回目となる開催の実施。22の国と地域より222の出展団体が参加した。また、過去最高となる56の国と地域よりセラー、バイヤー、プロデューサーをはじめとした業界関係者の事前来場登録があった。

主催： 経済産業省 / 公益財団法人ユニジャパン
共催： 第23回東京国際映画祭実行委員会
連携企画： 国際ドラマフェスティバル in Tokyo 2010
連携イベント： ユニジャパン エンタテインメント フォーラム
東京国際ミュージックマーケット / 東京国際アニメ祭 2010 秋
クリエイティブ・マーケット・東京
期日： 平成22年10月25日(月)～28日(木)
会場： 展示会場 六本木ヒルズ森タワー、六本木アカデミーヒルズ40F
スクリーニング会場 六本木アカデミーヒルズ49F
シネマート六本木、アスミックエース試写室

TPG Tokyo Project Gathering

映画・TVなど映像コンテンツの国際共同製作・出資を推進するTPGへ、31の国と地域より124企画が集まった。28の選出企画の出品者が、製作プロデューサー、投資家、芸能プロダクション、レコード会社等の関係者らとミーティングを行い、ビジネス・マッチングは活況を呈した。総ミーティング数は400件。過去最高となる56の国と地域よりセラー、バイヤー、プロデューサーをはじめとした業界関係者の事前来場登録があった。

主催： 経済産業省 / 公益財団法人ユニジャパン
共催： 第23回東京国際映画祭実行委員会
期日： 平成22年10月25日(月)～28日(木)
会場： 六本木ヒルズ森タワー、六本木アカデミーヒルズ40F

3. 国際振興支援事業

【 海外映画祭・映画賞出品支援事業 】

(1) 映画祭・映画賞出品支援（文化庁委託事業）

海外映画祭・映画賞に参加する日本映画の出品経費、映画製作者の渡航経費等を支援する。長編映画から短編映画、著名監督作品から新人監督・学生監督作品まで、アニメーション、ドキュメンタリー映画を含めて、海外の映画祭から招待されたあらゆる日本映画を支援対象としている。

平成 22 年度支援実績

総採択数 76 件（平成 21 年度実績 83 件）

総申請件数 228 件（同 280 件）

支援総額 32,172,235 円（同 29,774,213 円）

主な支援作品

カンヌ国際映画祭	『アウトレイジ』（監督：北野武）
ベネチア国際映画祭	『ノルウェイの森』（監督：トラン・アン・ユン）
ベネチア国際映画祭	『十三人の刺客』（監督：三池崇史）
モントリオール世界映画祭	『BOX 袴田事件 命とは』（監督：高橋伴明）
モントリオール世界映画祭	『必死剣 鳥刺し』（監督：平山秀幸）
ベルリン国際映画祭	『白夜行』（監督：深川栄洋）
ベルリン国際映画祭	『ヘプنز ストーリー』（監督：瀬々敬久）

(2) 海外映画祭での日本映画情報センター（文化庁委託事業）

主要映画祭に日本映画の海外広報・セールス拠点「ジャパンプース」を、経済産業省、文化庁、ジェットロ、ユニジャパンの「オールジャパン」体制で出展、そのスペースを利用して日本映画情報センターを設置した。

カンヌ映画祭（平成 22 年 5 月 12 日～23 日）

トロント映画祭（平成 22 年 9 月 9 日～19 日）

- ・韓国映画振興委員会（KOFIC）と共同で「アジアブース」として出展
- ・国際交流基金トロント日本文化センターにて「アジア映画レセプション」を開催（9 月 15 日）。国際交流基金、KOFIC、ユニジャパンが共催

ブサン映画祭（平成 22 年 10 月 7 日～15 日）

- ・映画祭公式ホテルにて「ジャパンプース」を、特定非営利活動法人映像産業振興機構（VIPO）との共催で実施（10 月 11 日）

ベルリン映画祭（平成 23 年 2 月 10 日～20 日）

香港映画祭（平成 22 年 3 月 20 日～4 月 5 日）

(3) DVD ライブラリー

来日する海外の映画祭関係者が新作日本映画を視聴できる「DVD ライブラリー」を財団内に設置。また、カンヌ、ベルリン映画祭等での「ジャパンプース」にも設置し、海外においても広く周知を図った。

視聴者数：47 人

ライブラリー本数：646 本

主な視聴者：ベネチア映画祭、ベルリン映画祭、プサン映画祭、全州映画祭（韓国）、ニッポン・コネクション（ドイツ）、ニューヨークアジア映画祭

(4) ユニジャパン・ニュースレター

世界各地の映画祭エントリー情報や日本映画の出品・受賞情報を掲載したメールマガジン「Unijapan Newsletter」を隔週で発行（日本語版、英語版）。またこのニュースレターは本財団のウェブサイトにも転載され、より広く情報提供を行なっている。

エントリー情報を掲載した海外映画祭及び映像見本市の数は以下の通り。

開催地域	掲載映画祭数
ヨーロッパ	102 件 (103 件)
南北アメリカ	52 件 (44 件)
中近東アフリカ	7 件 (10 件)
アジア太平洋	25 件 (30 件)
日本	7 件 (0 件)
合計	193 件 (187 件)

() 内の数字は、平成 21 年度のもの。

【 日本映画・アニメの海外展開支援事業 】

(1) 日本映画・アニメ海外販売支援（経済産業省委託事業）

前事業に記載のとおり、主要映画祭に日本映画の海外広報・セールス拠点「ジャパンプース」を出展、日本の映像コンテンツの輸出促進を目的としてセールス会社にスペースを提供した。

カンヌ映画祭（平成 22 年 5 月 12 日～23 日）：

セールス会社 16 社参加 * 昨年は 17 社

アジア・テレビジョン・フォーラム（ATF）（平成 22 年 12 月 8 日～10 日）：

セールス会社 12 社参加 * 今年度初めて出展

ベルリン映画祭（平成 23 年 2 月 10 日～20 日）：

セールス会社 7 社参加 * 昨年は 12 社

香港映画祭（平成 22 年 3 月 20 日～4 月 5 日）：セールス会社 19 社 * 昨年は 9 社

(2) 外国映画・テレビのロケーション誘致活動支援（観光庁委託事業）

特定非営利活動法人ジャパン・フィルム・コミッションと連携し、誘致を促進するための支援プログラムを企画・運営すると共に、内外の国際映画祭において、外国映画・テレビの日本でのロケーション撮影誘致活動を実施した。

平成 22 年度支援実績

ロケーション撮影支援（渡航費・滞在費を上限 500 万円まで支援）

『ATHENA - アテナ - 』（テレビドラマ）

申請者：株式会社インペインターグローバルジャパン 製作国：韓国

『海峡をつなぐ光』（ドキュメンタリー、映画、テレビ）

申請者：株式会社平成プロジェクト 製作国：韓国/日本

ロケーションハンティング支援（渡航費・滞在費を上限 100 万円まで支援）

『ウロボロス（仮）』（テレビドラマ）

日本側製作管理者：株式会社ビジョンプラス 製作国：中国/韓国/日本

『Das Traumschiff 2011 Japan（仮）』（テレビ・ドキュメンタリー）

日本側製作管理者：TWENTY FIRST CITY 株式会社 製作国：ドイツ

『弓と禅（仮）』（映画）

日本側共同製作者：株式会社ツインエムカンパニー 製作国：ドイツ/日本

ロケーション誘致活動を実施した映画祭

プサン国際映画祭（平成 22 年 10 月 7 日～15 日）

・ロケーション見本市、BIFCOM に参加

東京国際映画祭（平成 22 年 10 月 23 日～31 日）

・全国ロケ地フェアの開催（特定非営利活動法人ジャパン・フィルム・コミッション）

ローマ国際映画祭（平成 22 年 10 月 28 日～11 月 5 日）

・映画祭会場に出展した日本観光ブース内にアニメ展示と資料配布を実施

(3) 国際共同製作支援（経済産業省委託事業）

国際共同製作を目指す日本のコンテンツ製作者と海外、特にアジア各国のコンテンツ製作者とのマッチングやネットワーク作りを支援した。また、国際共同製作を促進するための調査と検討委員会の開催を実施した。

支援活動を実施した映画祭及びネットワーク・イベント

アヌシー国際アニメーションフェスティバル（平成 22 年 6 月 7 日～12 日）

上海国際映画祭（平成 22 年 6 月 14 日～16 日）

プチョン・ファンタスティック映画祭（平成 22 年 7 月 18 日～21 日）

パリ映画祭（平成 22 年 7 月 5 日～9 日）

日韓ビジネスキャンパス in 東京（平成 22 年 9 月 3 日～4 日）

・韓国 KOFIC との共催で開催。日韓のプロデューサー 11 人が参加。

ローマ映画祭（平成 10 月 28 日～11 月 5 日）

アニメ・スピードピッチ in 東京（平成 22 年 10 月 25 日～27 日）

・北米の大手テレビアニメーション制作会社のプロデューサー 5 名に対して、日本のクリエイター 50 組が自作のプレゼンテーションを行った。

日欧加コプロダクション・ラボ in 京都 & 鎌倉（平成 23 年 1 月 7 日～11 日）

・ヨーロッパのプロデューサー支援団体 ACE との共催で開催。日本、ヨーロッパ、カナダのプロデューサー 21 人が参加。

香港フィルマート（平成 23 年 3 月 20 日～24 日）

・日本、中国、韓国、香港、台湾のプロデューサーの出席を得て、国際共同製作をテーマとしたセミナーを実施。

国際共同製作促進のための調査と検討委員会の開催

調査担当：フィルム・ファイナンス・ジャパン有限会社（楠 純子）

検討委員会

石川知春	NPO 法人映像産業振興機構 事務局長
石川光久	株式会社プロダクション・アイジー 代表取締役社長
井関 惺	株式会社タラ・コンテンツ プロデューサー
大山秀徳	一般社団法人日本動画協会 副理事長 東映アニメーション株式会社 常務取締役
華頂尚隆	一般社団法人日本映画製作者連盟 事務局長
富山省吾（委員長）	日本アカデミー賞協会 事務局長
堀越謙三	有限会社ユーロスペース 代表取締役 東京藝術大学大学院映像研究科教授
和田倉和利	株式会社シネバザール 代表取締役

（４）海外ネットワーク構築

日本映画・映像産業の海外窓口機関として、世界主要国、特にアジアの映像コンテンツ振興機関とのネットワーク構築を進めている。

主なネットワーク活動

アジア・フィルム・インダストリー・ネットワーク（AFIN）参加団体

Korean Film Council - KOFIC（韓国）

Federation of National Film Associations of Thailand（タイ）

Singapore Film Commission（シンガポール）

Vietnam Media（ベトナム）

Multimedia Development Corporation (マレーシア)

Philippine Film Foundation (フィリピン)

Cambodia Film Commission (カンボジア)

Unijapan (日本)

Producers Guild of America (PGA、アメリカ・プロデューサー協会)

・同団体が主催する Co-Production Showcase (6月、ロサンゼルス)に参加

Centre National du Cinema et de l'Image Animee (CNC、フランス映画庁)

・国際共同製作協定に関する意見交換を実施

【 情報発信事業 】

(1) 海外向け日本映画データベース (JFDB)

日本映画・アニメの作品情報、日本の映像関連企業・団体の連絡先を日英バイリンガルでデータベース化している。平成 22 年度は、経済産業省「映画・アニメ海外展開後方支援事業」の委託事業の一部として、掲載作品の予告編動画の配信プログラムを開発、海外のバイヤー等に対してより訴求力のある情報発信システムを目指した。

公開年	掲載作品数
2002 年	40
2003 年	118
2004 年	138
2005 年	117
2006 年	223
2007 年	289
2008 年	372
2009 年	376
2010 年	398
合 計	2,071

(2) 海外向け日本映画年鑑「Japanese Film 2011」の出版(文化庁委託事業)

平成 22 年に劇場公開された代表的な日本映画・アニメの紹介と、日本映画産業統計、映画・アニメ関連企業及び団体のコンタクト先を掲載、主要映画祭・映像見本市にて配布した。

掲載作品：選考委員会により代表的な 79 作品を選んで日本語・英語併記で紹介
日本映画関連団体・企業連絡先一覧

項 目	掲載社数
映画・映像関連団体	32 (32)
映画製作会社	191 (183)
アニメーション制作会社	61 (39)
映画配給会社	133 (123)
セールス会社	33 (31)
フィルム・コミッション	121 (107)
映画祭(国内)	35 (25)
映画学校	28 (25)
現像所・機材等サービス	48 (44)

* () 内の数字は平成 21 年度のもの

(3) 海外向け新作日本映画カタログ「New Cinema from Japan」の出版

(国際交流基金との共同事業)

海外の映像見本市で配布することを目的とした、日本映画新作カタログ。国内外の映画関係者によりセールスツールとして活用された。

発行：

- ・ 2010 年春号(5月発行) 11社 23 作品を紹介
- ・ 2010 年秋号(10月発行) 9社 21 作品を 配布先：

紹介

- ・ カンヌ、トロント、プサン、アメリカン・フィルム・マーケット(AFM)、ベルリン、香港等

【調査研究事業】

(1) 海外情報収集拠点の設置調査、国内外のコンテンツ産業情報提供

経済産業省からの受託事業「映画・アニメ海外展開後方支援事業」として実施。コンテンツ産業の国際ビジネス支援のため、各国コンテンツ産業の情報収集拠点を海外に設置するための、また国内外のコンテンツ事業者への情報提供のための調査を実施。

事業の概要

北京での海外情報収集拠点設置のための調査

調査担当：株式会社電通

国内メディア・エンタテインメント・コンテンツ業界の企業分析

調査担当：株式会社ホワイト・ノーツ

中国及び韓国のメディア・エンタテインメント・コンテンツ業界についての調査

調査担当：株式会社ホワイト・ノーツ

コンテンツの海外展開にかかる調査・情報収集

調査担当：株式会社アヴァンティ・プラス

デジタルシネマ産業に関する調査

調査担当：学校法人金沢工業大学 コンテンツ&テクノロジー融合研究所

コンテンツ業界の現状と今後の課題

調査担当：株式会社パンアジア・パートナーズ

東欧諸国地域における日本メディアコンテンツの市場調査

調査担当：一般社団法人日本文化芸術機構

(2) 人材育成事業(若手プロデューサーに対する留学支援)

経済産業省からの受託事業「有望若手映像等人材海外研修事業」として実施。世界最高水準のプロデューサー教育カリキュラムを有する米国フィルムスクール(大学院)への留学生への学費等の支援を行った。

留学支援事業の概要

対象となるフィルムスクール(大学院プロデューサーコース)

- ・ University of Southern California (USC)
- ・ University of California, Los Angeles (UCLA)
- ・ American Film Institute (AFI)
- ・ New York University (NYU)
- ・ Columbia University

平成22年度支援対象者：小原康平(AFI Conservatory Producing Discipline)

研修事業の実施

短期研修プログラム

- ・ 米国西海岸の複数校の有力フィルムスクール及び実際の進学後のインターン先となる企業の視察等を含む短期研修プログラムを実施。
- ・ 日程：平成22年8月29日～9月5日
- ・ 参加者：12人

研修事業の実施（沖縄国際映画祭との連携）

- ・ハリウッド流ピッチトレーニング in 沖縄
- ・日程：平成 23 年 3 月 25 日～27 日
- ・参加者：10 人

プロデューサーカリキュラムの作成

- ・国際コンテンツ・ビジネス・プロデューサーとして必要な各分野に関するカリキュラムの開発を実施。
- ・参考書籍の選定及び書評の作成：約 200 冊
- ・海外書籍の翻訳：9 冊
- ・オリジナルテキストの作成：18 冊
- ・プロデューサー用語集の作成：約 550 語

（3）人材育成事業（若手クリエイター対象とした映像コンテストと短編制作）

経済産業省からの受託事業「新進若手映像等人材発掘・国際ネットワーク構築事業」
として実施。若手クリエイターを対象とした映像コンテストと連携した映像制作、及
び国際映画祭と連携した若手クリエイターの国際ネットワーク構築を目的とした事業
である。

連携した映像コンテスト

「PFF アワード」（ぴあフィルムフェスティバル・コンテスト部門）

PFF アワード 2010 を共催し、若手クリエイターの発掘を目的としたコンテスト、
入選者等を対象とした短編映像制作プログラムを実施。完成作品は以下の 10 作品で
ある。

- 『ニューキッズ・オン・ザ・ゲリラ』（監督：阿部綾織、高橋那月）
- 『トビラを開くのは誰？』（監督：伊月 肇）
- 『ふたつのウーテル』（監督：田崎恵美）
- 『わたしたちがうたうとき』（監督：木村有理子）
- 『閑古鳥が泣いてたら』（監督：小林 岳）
- 『ぬくぬくの木』（監督：片岡 翔）
- 『遠く離れて』（監督：廣原 暁）
- 『路上』（監督：山川公平）
- 『日曜大工のすすめ』（監督：吉野耕平）
- バーニング ハーツ』（監督：ジェームス・マクフェイ）

「デジタルクリエイターズ・コンペティション 2010」

デジタルコンテンツ協会が主催する同コンテストと連携し、入選者等を対象に短編映像制作研修を実施。7名が研修を受講、完成作品は以下の4作品である。

『セピア色のとけい』（監督・制作：きのしたたく）

『HAPPINESS』（監督・制作：山本蒼美）

『MelanCholy』（監督・制作：岡田拓也）

『小さな庭園』（監督・制作：斎藤俊介）

連携した国際映画祭

ベルリン国際映画祭（平成23年2月）：

・European Film Marketにて上映、監督3名、プロデューサー3名が現地でのネットワーキングに参加。

香港国際映画祭（平成23年3月）：

・Hong Kong Filmartにて上映、監督1名、プロデューサー2名が現地でのネットワーキングに参加。

カンヌ国際映画祭（平成23年5月開催）：

・短編コンペティション部門に『ふたつのウーテル』（田崎恵美監督）が、日本映画として45年ぶりに正式招待されることが決定。

（4）シンポジウム・セミナーの開催（第7回文化庁映画週間）

東京国際映画祭に会期を合わせて、平成22年10月22日～31日、六本木ヒルズ他にて開催。

文化庁映画賞

文化映画記録部門受賞作品（授賞式を10月22日、記念上映会を10月23日に実施）

・文化記録映画大賞『ただいま それぞれの居場所』

監督：大宮浩一 製作：有限会社 大宮映像製作所

・文化記録映画賞優秀賞

『こつなぎ 山を巡る百年物語』 監督：中村一夫 製作：株式会社周

『月あかりの下で～ある定時制高校の記憶～』

監督：太田直子 製作：株式会社グループ現代

文化庁映画賞 映画功労部門受賞者（授賞式を10月22日に実施）

井上 治（映画編集）

笹川ひろし（アニメーション監督）

杉井ギサブロー（アニメーション監督）

築地米三郎（特撮）

橋本泰夫（映画録音）

松下 潔 (映画美術・背景)

渡辺 生 (映画照明)

映画人の視点

映画人、小泉今日子の世界

ゲスト：和田誠 (監督)、町田博 (撮影)、黒沢清 (監督)、小柳友 (俳優)

モデレーター：河井真也 (プロデューサー)

2 映画人、種田陽平の世界

ゲスト：河井真也 (映画プロデューサー)、前田浩子 (映画プロデューサー)

谷島正之 (映画プロデューサー)、リー・チーガイ (監督)

スー・チャオピン (監督)、栗山千明 (女優)

モデレーター：田中文人 (東京国際映画祭)、前田知恵 (アシスタント兼通訳)

映画人、りんたろうの世界

ゲスト：古谷徹 (声優)、大友克洋 (監督)、宇崎竜童 (音楽家)

片渕須直 (監督)

モデレーター：田中文人 (東京国際映画祭)

シンポジウム –Movie Campus–モデレーター関口裕子 (バラエティ・ジャパン編集長)

映画『桜田門外ノ変』から生まれた映画づくり・ひとづくり・まちづくり

ゲスト：佐藤純彌 (映画監督)

橘川栄作 (茨城県知事公室広報広聴課広報戦略室室長補佐)

ヨーロッパシネマについて

ゲスト：ヘンク・キャンピング (オランダ・ユトレヒト映画館「フィルムシ

アター ヘット・ホーフト」ディレクター)

映画文化維新！時代を変える新しい興行文化のつくり方

ゲスト：梅津 文 (GEM Partners 代表取締役パートナー)

吉村知己 (株式会社ヨアケ代表取締役)

武田 和 (一般社団法人映画演劇文化協会 午前十時の映画祭主催)

下地久美子 (桜坂劇場 番組編成)

4 . エンタテインメントフォーラム事業

コンテンツビジネスの最前線の動きを業界関係者、実務者に届け、実務に活用してもらうことを主眼に置き、東京国際映画祭および TIFFCOM の開催時期に合わせて、22 のセミナーを3日間で実施するユニジャパン・エンタテインメント・フォーラム（UEF）を開催した。

日 程：平成 22 年 10 月 25 日（月）～ 27 日（水）
会 場：六本木ヒルズ森タワー/政策研究大学院大学（GRIPS）
セミナー数：22
参 加 者：1,777 人

（1）東アジア コンテンツプレゼンテーション

ロジャー・ガルシア（香港国際映画祭エグゼグティブディレクター / 香港）
ネスター・ジャーディン
（Center for International Trade Expositions and Missions / フィリピン）
プリスナ・ポンタシリクル
（Office of Contemporary Art and Culture, Ministry of Culture 事務局長 / タイ）
イ・テヒョン（KOFIC コミッショナー / 韓国）
リー・リエ（映画プロデューサー / 台湾）
西村 隆（公益財団法人ユニジャパン 事務局長 / 日本）

（2）ジェレミー・トーマスが語るアジアとの共同製作とは？

ジェレミー・トーマス（プロデューサー）
マイク・グッドリッジ（スクリーン・インターナショナル チーフエディター）

（3）ドラマ『蒼穹の昴』共同制作の舞台ウラ

廣瀬哲雄（「蒼穹の昴」制作統括/アジアコンテンツセンター）
今津宏巨（「蒼穹の昴」プロジェクト統括/アジアコンテンツセンター）

（4）インディペンデントはハリウッドでビジネスになる

アーノルド・メッサー（フェニックス・ピクチャーズ プレジデント&COO）
関口裕子（バラエティジャパン 編集長）

（5）中国・香港—その映画ビジネス戦略

ケルヴィン・ウー（オレンジ・スカイ・ゴールデン・ハーベスト CEO）
クリフォード・クーン（Variety 中国在住記者）
関口裕子（バラエティジャパン 編集長）

(6) アジアキャスティングフォーラム

蘇 志鴻 (映画監督・プロデューサー 「ベストキッド」)

ジョナサン・キム

(プロデューサー 「シルミド」「初雪の恋」/KOFIC Producing Department 客員教授)

杉本 伸 (アミューズ 取締役)

鈴木謙一 (スターダストプロモーション 取締役)

橘田寿宏 (ドラゴンハートインターナショナル 代表取締役)

(7) 映像コンテンツと地域国際化

宮島秀司 (株式会社ブラ・インターナショナル 代表取締役社長)

細羽 正 (鳥取県文化観光局 国際観光推進課長)

渡邊竜一 (富士株式会社 取締役)

(8) 放送と流通 ~ DLE×BS11×ビックカメラが仕掛ける新マーケティング

椎木隆太 (株式会社ディー・エル・イー 代表取締役)

目時 剛 (日本 BS 放送株式会社 (BS11) 代表取締役社長)

(9) テレビフォーマット販売・世界の最新事情と日本

石山辰吾 (フリーマントルメディア 日本代表)

(1 0) The Producer's Choice ~ 企画成立までの資金調達の道のり ~

楠 純子 (フィルム・ファイナンス・ジャパン 代表取締役)

根津奈都子 (エンターテインメント・パートナーズ アジア 代表取締役)

カラム・グリーン (プロデューサー)

(1 1) 映像制作者のための海外放送形態事情

小野原和宏 (共同テレビジョン 映像制作室 室長)

中澤義晴 (独立行政法人日本貿易振興機構 (JETRO) 海外市場開拓部)

渡邊竜一 (富士株式会社 取締役)

(1 2) 映画をつくる：キャンパスから劇場へ

五十嵐真志 (プロデューサー)

真利子哲也 (監督)

(13) ピッチングの極意：北米市場売り込みのための戦術指南

アロン・バーガー (シャトローン Co-founder/Partner)

カーティス・レラッシュ (カートゥーン・ネットワーク Director of Comedy Animation)

ジェイ・バステアン

(ワーナー・ブラザーズ・アニメーション Vice President of Original Series)

デレック・リーブス

(コーラス・エンタテインメント、ネルバナ Manager of International Co-Production)

エディー・カックス

(ウォルト・ディズニー・テレビジョン・インターナショナル・ジャパン Vice President and General Manager, Branded Channels)

海部正樹 (Wowmax Media, L.L.C. 業務執行社員/CEO)

(14) 激変する国際コンテンツ流通産業

~ 放送からデジタル・マルチプラットフォームへ ~

フレッド・コーヘン

(国際テレビ芸術科学アカデミー 会長/金沢工業大学虎ノ門大学院 客員教授)

海老沢勝二 (元 NHK 会長)

北谷賢司

(金沢工業大学虎ノ門大学院 教授/コンテンツ&テクノロジー融合研究所 所長)

(15) プロデューサーを志す諸君へ

ローレンス・ターマン (南カリフォルニア大学 映画学部 プロデューサーコース 学科長)

(16) 中国メディアのニューウェーブ

~ 動画配信やデジタル放送などでの日中コラボレーションの可能性 ~

俞 増徳 (豪徳広告有限公司 総経理/ジェットロ・コーディネーター)

新山浩康 (SiTV 生活时尚チャンネル/上海ロキシー文化伝播有限公司 副総裁)

(17) 映画ジャーナリストディスカッション ~ ヨーロッパ映画の今と日本市場 ~

ジャン・ミシェル・フロドン (ディレクター/ジャーナリスト/元カイエ・デュ・シネマ)

リザ・フォアマン

(ニューヨークタイムズ/カンヌマーケットニュース/ハリウッドレポーター)

ヤン・シュルツ・オハラ (Der Tagesspiegel)

マーク・アダムス (スクリーン・インターナショナル Chief Critic)

ジェyson・グレイ (スクリーン・インターナショナル 日本特派員)

(18) 東京国際アニメフェア 10周年と日本アニメの海外展開

大山秀徳 (東映アニメーション株式会社 常務取締役)

鈴木 仁 (東京国際アニメフェア実行委員会事務局 チーフプロデューサー)

山口貴也 (ワーナー エンターテイメント ジャパン株式会社 ワーナー・ブラザーズ マーケティング本部 ローカルアクイジション&ニューイニシアチブ シニア・マネージャー)

(19) マネキンドラマ『オー！マイキー』の海外展開について

泉 正隆 (エス・エス・エム 代表取締役社長)

(20) ヒットコンテンツプロデューサーのEQ的特徴

渡辺 徹 (EIリサーチ株式会社 代表取締役)

杉山知之 (デジタルハリウッド株式会社 取締役 学長)

吉田就彦 (デジタルハリウッド大学院 教授)

(21) 「ライムスター宇多丸のウィークエンド・シャッフル」公開収録

「サタデーナイト・ラボ特別編」

宇多丸 (ライムスター / MC / DJ / 映画評論家)

高橋ヨシキ (映画秘宝 アートディレクター)

古川 耕 (番組構成作家/アニメライター)

(22) 映画ビジネスの新潮流～「地ムービー™」プロジェクト～

谷國大輔 (ジムービー 代表取締役)

瀬木直貴 (監督)

三輪由美子 (プロデューサー)

・ [処務の概要]

1. 役員に関する事項

(平成23年3月31日現在)

役職名	氏名	任期	常勤/ 非常勤	報酬 等	法人以外の現職	備考
代表理事 理事長	高井 英幸	平成22年7月1日～ 平成24年6月30日	非常勤	無	東宝株式会社 代表取締役社長	
理事	岡田 剛	平成22年7月1日～ 平成24年6月30日	非常勤	無	東映株式会社 代表取締役社長	
理事	小野 直路	平成23年3月18日～ 平成24年6月30日	非常勤	無	日本放送協会 副会長	
理事	崔 洋一	平成22年7月1日～ 平成24年6月30日	非常勤	無	協同組合日本映画監督協会 理事長	
理事	迫本 淳一	平成22年7月1日～ 平成24年6月30日	非常勤	無	松竹株式会社 代表取締役社長	
理事	佐藤 直樹	平成22年7月1日～ 平成24年6月30日	非常勤	無	日活株式会社 代表取締役社長	
理事	椎名 保	平成22年9月2日～ 平成24年6月30日	非常勤	無	株式会社角川書店 代表取締役専務	
理事	布川 郁司	平成22年7月1日～ 平成24年6月30日	非常勤	無	一般社団法人日本動画協会 理事長	
理事	廣瀬 道貞	平成22年7月1日～ 平成24年6月30日	非常勤	無	社団法人日本民間放送連盟 会長	
理事	藤井 宏昭	平成22年7月1日～ 平成24年6月30日	非常勤	無	森アーツセンター 理事長	
理事	松岡 宏泰	平成22年7月1日～ 平成24年6月30日	非常勤	無	東宝東和株式会社 代表取締役社長	
理事	松下 康	平成22年7月1日～ 平成24年6月30日	非常勤	無	株式会社電通 専務執行役員	
理事	依田 巽	平成22年7月1日～ 平成24年6月30日	非常勤	無	社団法人日本経済団体連合会 エンターテインメント・コンテンツ 産業部会 会長	
監事	大藏 満彦	平成22年7月1日～ 平成26年6月30日	非常勤	無	全国興行生活衛生同業組合連合会 会長	
監事	濱野 保樹	平成22年7月1日～ 平成26年6月30日	非常勤	無	東京大学 大学院教授	
評議員長	大谷 信義	平成22年7月1日～ 平成26年6月30日	非常勤	無	一般社団法人日本映画製作者連盟 会長	
評議員	岡田 正代	平成22年7月1日～ 平成26年6月30日	非常勤	無	公益財団法人川喜多記念映画文化財団 理事長	
評議員	柏原 寛司	平成22年9月2日～ 平成26年6月30日	非常勤	無	社団法人日本シナリオ作家協会 会長	
評議員	角川 歴彦	平成22年7月1日～ 平成26年6月30日	非常勤	無	株式会社角川グループホールディングス 取締役会長	
評議員	兼松 照太郎	平成22年7月1日～ 平成26年6月30日	非常勤	無	協同組合日本映画撮影監督協会 理事長	
評議員	古森 重隆	平成22年7月1日～ 平成26年6月30日	非常勤	無	富士フイルム株式会社 代表取締役社長・CEO	
評議員	佐藤 孝	平成22年7月1日～ 平成26年6月30日	非常勤	無	株式会社博報堂DYメディアパートナーズ 代表取締役社長	
評議員	佐野 哲章	平成22年9月2日～ 平成26年6月30日	非常勤	無	株式会社ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント 業務執行役員	
評議員	新藤 次郎	平成22年7月1日～ 平成26年6月30日	非常勤	無	協同組合日本映画製作者協会 代表理事	
評議員	杉田 成道	平成22年7月1日～ 平成26年6月30日	非常勤	無	協同組合日本映画テレビプロデューサー協会 会長	
評議員	塚田 芳夫	平成22年9月2日～ 平成26年6月30日	非常勤	無	公益社団法人映像文化製作者連盟 会長	
評議員	松岡 功	平成22年7月1日～ 平成26年6月30日	非常勤	無	一般社団法人映画産業団体連合会 会長	
評議員	矢内 廣	平成22年7月1日～ 平成26年6月30日	非常勤	無	びあ株式会社 代表取締役社長	

2. 役員会等に関する事項

理事会

開会年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成 22 年 8 月 11 日	第 1 号議案 議案評議員会召集日設定案承認の件	可決
平成 22 年 9 月 6 日	第 1 号議案 平成 22 年 4 月 - 同 6 月期事業報告及び収支決算承認の件 第 2 号議案 平成 22 年 7 月 - 平成 23 年 3 月期事業計画及び収支予算承認の件 第 3 号議案 財団諸規程の改訂案承認の件 第 4 号議案 財団役員・法人間取引承認の件 第 5 号議案 評議員会召集日設定案承認の件	可決 " " " "
平成 23 年 3 月 18 日 当初 3 月 14 日に開催を予定の処、3 月 11 日に東日本大震災の発生のため開催が出来ず、議決を省略して理事・監事の全員に対し電磁的方法または書面での同意を求めた処、3 月 18 日に全員分の同意の意思表示を集約するに至った。	第 1 号議案 平成 23 年度事業計画及び収支予算承認の件 第 2 号議案 東京国際映画祭チェアマン選任案の承認の件 第 3 号議案 第 23 回東京国際映画祭実行委員会の解散並びに第 24 回東京国際映画祭実行委員会の設置及び同委員選任案の承認の件 第 4 号議案 財団規程の新設案承認の件 第 5 号議案 評議員会召集日設定案承認の件	可決 " " " "

評議員会

開会年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成 22 年 9 月 2 日	第 1 号議案 評議員長選任案の承認の件 第 2 号議案 評議員(3 名)及び理事(1 名)選任案の承認の件 第 3 号議案 平成 22 年 4 月 - 同 6 月期事業報告及び収支決算承認の件 第 4 号議案 平成 22 年 7 月 - 平成 23 年 3 月期事業計画及び収支予算承認の件	可決 " " "
平成 23 年 3 月 18 日 当初 3 月 14 日に開催を予定の処、3 月 11 日に東日本大震災の発生のため開催が出来ず、議決を省略して評議員の全員に対して電磁的方法または書面での同意を求めた処、3 月 18 日に全員分の同意の意思表示を集約するに至った。	第 1 号議案 理事(1 名)選任案の承認の件 第 2 号議案 平成 23 年度事業計画及び収支予算承認の件	可決 "

3. 寄附金に関する事項

平成23年3月31日現在

(単位：円)

寄附の目的	寄附者	寄附金額	受領日	備考
国際映画祭 開催費用	松竹(株)	9,000,000	平成22年7月12日	
	東宝(株)	9,000,000	平成22年7月30日	
	東映(株)	9,000,000	平成22年7月12日	
	(株)角川書店 (注)1.	9,000,000	平成22年7月30日	
	(株)ティーワイリミテッド	6,000,000	平成23年3月31日	
	日活(株)	4,000,000	平成22年11月5日	
	ぴあ(株)	2,500,000	平成22年2月10日	
	富士フィルム(株)	2,000,000	平成22年11月25日	
	(社)映画文化協会	1,000,000	平成22年8月31日	
	東京電力(株)	500,000	平成22年9月28日	
	合計	52,000,000		

(注)1.平成23年1月1日付で角川映画(株)と(株)角川書店が合併したことによる

4. 賛助会費に関する事項

(年会費 1口 50万円)

目的	会員氏名	口数	会員氏名	口数
	松竹(株)	6	(株)東北新社	4
	東宝(株)	6	アスミック・エースエンタテインメント(株)	2
	東映(株)	6	(株)ショウゲート	2
	(株)角川書店 (注)2.	6	東京テアトル(株)	2
	日活(株)	6	(株)東急レクリエーション	1
	ワーナー・エンターテインメント ジャパン(株)	4	TOHOシネマズ(株)	1
	(株)ソニー・ピクチャーズ・エンタテインメント	4	大蔵映画(株)	1
	ウォルト・ディズニー・ジャパン(株)	4	佐々木興業(株)	1
	20世紀フォックス映画	4	武蔵野興業(株)	1
	パラマウントジャパン(株)	4	三和興行(株)	1
	ギャガ(株)	3	(株)東京楽天地	1
	東宝東和(株)	4	バンダイビジュアル(株)	1
	(株)IMAGICA	1	東宝アド(株)	1

(株)東京現像所	1	(株)サウンドマン	1
報映産業(株)	1	(株)クオラス	1
東映ラボ・テック(株)	1	エイベックス・エンタテインメント(株)	1
シンエイ動画(株)	1	(株)電通	4
東映アニメーション(株)	2	(株)博報堂DYメディア・パートナーズ	4
日本テレビ放送網(株)	4	ソニー(株)	1
(株)TBSテレビ	4	住友商事(株)	1
(株)テレビ朝日	4	コダック(株)	1
(株)フジテレビジョン	4	富士フィルム(株)	2
(株)テレビ東京	3	(株)日本シネアーツ社	1
(株)NHKエンタープライズ	2	トップツアー(株)	1
(株)WOWOW	1	ウシオ電機(株)	1
スカパーJ S A T(株)	1	(社)日本映像ソフト協会	4
(株)衛星劇場	2	(株)ティーワイリミテッド	1
(株)ニッポン放送	1	(株)ヒューマックスシネマ	1
(株)東京タカラ商会	1	(株)チッタエンタテインメント	1
ジュピターエンタテインメント(株)	1	(株)タカラトミー	2
(株)ポニーキャニオン	3	(株)集英社	2
(株)角川グループホールディングス	2	(株)サンライズ社	1
びあ(株)	1	加チャア・コンビニエンス・クラブ(株)	1
合計 66社 149口 74,500,000円			

(注)2.平成23年1月1日付で角川映画(株)と(株)角川書店が合併したことによる